



2011年4月5日

各 位

会社名	キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代表者	代表取締役社長 山下 正弘 (コード番号 4569 東証第1部)
問い合わせ先	コーポレートコミュニケーション統轄部長 宮木修次 TEL : 03-3293-3414

過活動膀胱治療剤「ウリトス®錠 0.1 mg」の口腔内崩壊錠を新発売

キョーリン製薬ホールディングス株式会社の子会社である杏林製薬株式会社（本社：東京都千代田区、社長：平井 敬二、以下「杏林製薬」）は、2007年6月に新発売し2009年12月には新用量の承認も取得しました過活動膀胱治療剤「ウリトス®錠 0.1 mg / 一般名：イミダフェナシン」の追加剤型として、口腔内崩壊錠（OD錠 0.1 mg）を新発売しましたのでお知らせいたします。

イミダフェナシンは、杏林製薬が創製し、同社と小野薬品工業株式会社（本社：大阪市中央区、社長：相良 暁、以下「小野薬品」）が共同開発した新規の抗コリン剤で、ムスカリン受容体サブタイプのM3 およびM1 に対して選択的な拮抗作用を示すことにより、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善します。

また、本剤は膀胱選択性が高く、口渇（口内乾燥）が少ない薬剤であり、過活動膀胱患者さんのQOL 向上に役立つ薬剤としても高い評価を得ております。

今回、新発売しました口腔内崩壊錠は、高齢者や嚥下機能の低下した患者さん、さらには水分の摂取を控えておられる患者さんにも有用であるなど、患者さんの服薬時の選択肢が一層広がるとともに、服薬コンプライアンスの向上に資するものと期待しております。

同剤については、杏林製薬は「ウリトス®OD錠 0.1mg」、小野薬品は「ステーブラ®OD錠 0.1mg」の製品名でそれぞれ販売いたします。

なお、「ウリトス（ウリトス®錠 0.1mg 及びウリトス®OD錠 0.1mg）」の今年度（2012年3月期）売上予想につきましては5月11日発表予定の2011年3月期決算発表時に開示いたします。

<用語解説>

過活動膀胱 (OAB : Overactive Bladder)

過活動膀胱は、蓄尿障害を示唆する症状症候群で、尿意切迫感を主訴とし、通常これに頻尿や夜間頻尿を伴い、場合によっては切迫性尿失禁を伴います。トイレの不安のために外出を控えたり、夜間の睡眠が充分に取れなかったりと日々の行動が制限され、患者さんの QOL が著しく低下してしまうことが過活動膀胱の大きな問題となっています。

日本排尿機能学会の疫学調査 (2003 年) によると、40 歳以上の男女全体の 12.4%、約 810 万人が日本における過活動膀胱の潜在患者であると推定されています。

* ウリトス[®]OD錠 0.1mg の製品概要は以下の通りです。

製品名 (英名)	ウリトス [®] OD錠 0.1mg (英名 : URITOS [®])
一般名	イミダフェナシン (英名 : Imidafenacin)
効能・効果	過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁
用法・用量	通常、成人にはイミダフェナシンとして1回 0.1mg を1日2回、朝食後及び夕食後に経口投与する。 効果不十分な場合は、イミダフェナシンとして1回 0.2mg、1日 0.4mg まで増量できる。
製造販売承認日	2010年11月9日
薬価基準収載日	2011年3月18日
発売日	2011年4月5日
包装	ウリトス [®] OD錠 0.1mg : 100錠 (PTP) 、500錠 (PTP)
薬価	ウリトス [®] OD錠 0.1mg 96.50円

以上